

単元名 なんじ なんじはん

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 何時・何時半の時刻の読み方を理解し、時刻を読んだり文字盤で表したりすることができる。
 (2) 時計の長針・短針の指す目盛りに着目して、時刻を考えることができる。
 (3) 日常の生活場面に即して、時計を観察し、長針・短針の目盛りを見て、時刻を読もうとする。

標準的な展開例

01040203_001

【準備等】時計の大型模型、時計の模型（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 時計を見て、針の仕組みを知り、何時、何時半の時刻を読む。時計の模型で、何時、何時半を表す。[p. 80・p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の生活場面の絵を見て、何をしているところかを話す。 ○ 挿絵の流れに沿って、時計の大型模型を動かしながら、時計の針の位置や動きを確認する。 ○ 本時の学習課題を知る。 ★ とけいをよんでみよう。 ○ 何時の時計を読む。 <p>○ 何時半の時計を読む。</p> <p>○ 時計の模型を操作し、時計の針を合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の生活の場面と結び付けて時計の模型で示し、時刻と生活の事実とを結び付けさせるようにする。 ・ 時刻や時間を守るためにも、時計の見方を知ることの必要性を強調する。 ・ 長針と短針の動きの違いをよく観察させる。針は右回りに回ることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [あ]と[い]の時計を対比させて、共通点と相違点を見付けさせ、何時と読んだらよいのか予想させる。 ・ 長い針が12を指しているとき、短い針で何時を読むことを確認する。 ・ 「う」と「え」の時計を対比させて、相違点を見付けさせ、何時半と読んだらよいのか予想させる。 ・ 「何時半」のときの短針と長針の位置を確認する。 ・ 「起きる時刻」や「帰宅する時刻」などの問いに対し、ペアで、片方は時刻を言いながら針を合わせ、片方はその時刻を聞きながら針を合わせ、互いに答え合わせをする活動も入れるとよい。 <p>【評】 何時、何時半の時刻を読んだり、時計の模型で時刻を表したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、日常生活の中で時刻を読むことができるようにすることを目標としている。児童にとって日常生活の中で時刻に着目することは、比較的早くから経験していると思われる。これまで、「長い針が〇まできたら…」などのように時刻を示している経験があると思われるが、1年生のうちに、長針、短針のある時計で時刻を読むことができるようにしたい。また、文字盤を使って時刻を読むことだけでなく、日常生活と関連させて取り組ませたい。また、時計の模型を操作しながら時刻を読んだり、表したりすることができるようにし、友達同士で問題を出し合うなど、興味関心を高める活動を取り入れるようにしたい。